

主要農作物奨励品種特性表 (附特用作物)

令和6年6月

長 崎 県

目 次

稲	2
麦	3
かんしょ	3
大豆	4
落花生	4
ばれいしょ	5
茶	6

品種解説

稲	8
麦	15
かんしょ	19
大豆	21
ばれいしょ	22

稲																							
種	作	粳	品	奨	早	播	移	出	成	稈	穂	穂	一	玄米		玄	品	耐	脱	耐			
														千	容					葉	穂	白	
類	型	別	種	励	晩	種	植	穂	熟	長	長	数	穂	粒	重	積	米	質	倒	粒	葉	穂	白
			別	・	性	(((((((((((((伏	難	ち	ち	枯
水	早	粳	コシヒカリ	奨励	早の早	3.26	4.21	7.2	8.6	84	18.9	17.2	75	22.6	841	516	上の下	弱	難	弱	弱	中	
		粳	つや姫	奨励	早の早	3.26	4.21	7.4	8.8	71	18.3	17.7	69	22.6	834	523	上の中	やや強	難	強	強	やや強	
	普通	粳	イクヒカリ	認定	早の早	5.19	6.15	8.8	9.13	83	19.9	13.9	89	23.8	842	498	上の下	やや強	難	中	中	中	
		粳	なつほのか	奨励	早の晩	5.19	6.15	8.14	9.21	85	20.1	14.1	86	24.4	890	541	上の中	中	難	やや弱	やや弱	やや弱	
		粳	恋初めし	認定	中の早	5.19	6.15	8.18	9.27	87	20.4	12.1	99	24.5	866	597	中の上	中	難	やや強	強	やや弱	
		粳	おてんとそだち	奨励	中の早	5.19	6.15	8.21	9.30	77	19.3	14.6	100	21.9	876	544	上の下	強	難	中	やや弱	弱	
		粳	ヒノヒカリ	奨励	中の中	5.19	6.15	8.20	9.30	88	19.5	13.7	89	22.5	879	515	中の上	中	難	やや弱	やや弱	やや弱	
		粳	にこまる	奨励	中の晩	5.19	6.15	8.23	10.4	89	19.6	13.5	97	23.5	863	591	上の中	中	難	やや弱	やや弱	中	
		粳	レイホウ	認定	晩の早	5.19	6.15	8.27	10.14	87	20.1	15.7	83	22.8	878	530	中の上	やや強	中	やや弱	やや弱	中	
		粳	山田錦 (酒米)	認定	中の晩	5.19	6.15	8.23	10.6	108	22.0	14.2	-	27.0	-	483	中の下	弱	易	弱	弱	中	
	稲	早期	糯	峰の雪もち	認定	極早	3.27	4.23	7.3	8.5	62	17.4	15.1	64	23.9	819	509	上の中	強	難	中	やや弱	中
		普通	糯	モチミノリ	認定	早の晩	5.19	6.15	8.16	9.23	79	22.6	12.8	94	22.2	867	483	上の下	やや強	難	中	やや強	中
			糯	サイワイモチ	認定	中の晩	5.19	6.15	8.23	10.4	83	18.7	17.3	76	21.4	868	479	上の下	やや強	中	中	強	やや弱
			糯	ヒヨクモチ	認定	晩の晩	5.19	6.15	8.26	10.15	75	19.6	16.5	84	21.9	860	504	中の上	極強	やや易	やや弱	やや弱	中

(備考) 「峰の雪もち」は平成14～17年の4カ年の平均値。「コシヒカリ」と「つや姫」の容積重は平成23年の数値。その他の品種は令和元年～令和5年の5カ年の奨励品種決定調査成績による。ただし、普通期玄米収量は令和3年を除く4カ年の平均値

麦																			
種類	品種名	奨励認定の別	早中晩生の別	播種期 月・日	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	倒伏 程度	子実(g)		秋播性 程度	品質	収量 (kg/a)	耐病性			
											千粒重	容積重				さび病類	うどんこ病	赤かび病	縮萎縮病
小麦	シロガネコムギ	奨励	早	11.25	3.29	5.24	74	8.3	352	かなり強	36.7	836	II	上の中	35.4	やや弱	やや弱	中	強
	チクゴイズミ	奨励	早	11.25	3.28	5.23	81	8.4	363	やや強	41.0	836	I～II	上の中	41.2	やや強	やや弱	中	強
	ミナミノカオリ	奨励	早	11.25	4.2	5.27	84	8.9	351	やや強	40.9	830	I	上の下	41.2	やや強	やや強	やや弱	やや弱
	長崎W2号	奨励	早	11.25	4.4	5.28	86	9.3	375	かなり強	37.6	837	IV	上の中	45.0	—	やや弱	やや弱	やや弱
大二条	はるか二条	奨励	早	11.19	3.18	5.7	84	6.7	624	やや強	48.1	756	I	上の中	44.2	—	極強	中	極強
はだか麦	御島稗	奨励	晩	11.18	3.30	5.15	97	6.0	352	弱	29.4	837	III	上の中	31.5	中	やや強	やや強	強
	長崎御島	奨励	早	11.18	3.21	5.10	82	5.0	445	やや強	30.9	845	V	上の中	36.0	—	中	やや強	極強

(備考) 生育収量データについては小麦・はだか麦は令和元～5年産、二条大麦は平成30～令和2年、4年、5年産の5カ年の奨励品種決定調査成績による。

かんしょ																			
用途別	品種名	奨励認定の別	ほう芽		頂葉色	葉色	10a当収量 (kg)		切干歩合	澱粉歩留	いもの特性						貯蔵難易		
			良否	伸長良否			つる重	上いも重			形状	太さ	皮色	肉色	肉質	食味			
食工業原料用	農林1号	奨励	良	極良	淡緑	緑	1,780	1,960	高	高	短紡錘	大の中	赤褐	淡黄	粉	上	易		
工業原料用	農林2号	奨励	やや良	良	淡緑	暗緑	1,860	2,210	高	高	下膨短紡錘	大の中	黄白	淡黄	粉～中	上の下	やや易		
食用 (早堀青果向き)	高系14号	奨励	中	中～やや不良	淡緑	濃緑	1,200	2,250 (早堀1,520)	—	—	長紡錘	中～大の中	紅	黄	粉	上	やや難		
食用 (早堀出荷用) (普通堀貯蔵用)	ベニオトメ	奨励	良	良	淡緑	緑	1,460	2,490 (早堀2,090)	—	—	紡錘型	中	赤紅	淡黄	中	上	易		

(備考) 平成7年～11年度の系統適応性検定試験成績による。

大豆

作 型	品 種 名	奨励認定の別	早 中 晩	(播 月 種 日 期)	(開 月 花 日 期)	(成 月 熟 日 期)	主 茎 長 cm	主 茎 節 数	分 枝 数	花 色	熟 莢 色	子 実					ウ イ ル ス 病	べ と 病	葉 焼 病	倒 伏	耐 旱 性	品 質	長 所・短 所
												へ そ 色	裂 皮	粒 型	(百 g 粒 重)	収 量 (kg/10a)							
秋 大 豆	フクユタカ	奨励	晩の 早生	7.11	8.23	11.6	57	13.0	3.5	紫	淡褐	淡褐	少 く 中	球	28.1	344	中	強	中	強	中	上 の 中	多収、良質、やや裂皮粒が発生する。転換畑に適する。

(備考) フクユタカは平成26～令和5年の10ヶ年の奨励品種決定調査成績による。

落花生

品 種 名	奨励認定の別	草 型	粒 の 大 小	来 歴	開 花 始 期	収 穫 期	収量(kg/10a)				剥 実 歩 合	上 実 歩 合	上 実 百 粒 重	品 質	適 地	長 所	短 所	備 考
							莢 実 量	上 実 量	下 実 量	子 実 量								
千葉 半 立	認定	(半 立 性) 中 間 型	大 粒	千葉県在来の中間型品種から同県農試選抜昭和44年認定品種採用	月 日 6 ・ 15	月 旬 10 ・ 上	296	188	24	212	72%	89%	79g	中 の 上	強重粘土壌を除く全域。	大粒、多収。適応地域が広い。重要病害に比較的強い。	石灰が不足すると空莢を生じやすい。収穫時期を失うと落莢を生じやすい。	昭和43年センター福江2試験の平均。播種期の平均は5月31日

ばれいしょ

奨励認定の別	品種名	来歴	早晩性	葉色	塊茎				病害抵抗性				休眠期間(日)		10a当り収量(kg)		でん粉価(%)		食味	長所	短所	摘要
					皮色	形状	肉色	目の深さ	疫病	Yモザイク	青枯病	そうか病	春作産	秋作産	春作	秋作	春作	秋作				
奨励品種	デジマ	北海31号×ウンゼン昭和45年度奨励品種採用	晩	緑	淡ベージュ	短卵	淡黄	浅	やや弱	中	弱	やや弱	77	105	3,230	3,140	11.5	10.6	上	・春秋共に多収、外観食味共に良好	・青枯病、乾腐病に弱い ・玉揃いがやや悪く、裂開がやや多い	
	ニシユタカ	デジマ×長系65号昭和53年度奨励品種採用	中の晩	濃緑	淡ベージュ	短卵	淡黄	浅	中	やや弱	中	弱	98	103	3,790	2,680	10.9	9.6	中	・倒伏しにくい、春秋共に多収、玉揃いが良い	・秋作の萌芽はやや遅い ・そうか病、Yウイルスエネ系統に弱い	・成熟すると表皮が粗くなる
	アイユタカ	デジマ×長系108号平成14年度奨励品種採用	中	緑	淡ベージュ	短卵	淡黄	極浅	弱	中	弱	弱	81	102	3,840	2,330	10.2	10.5	中上	・春秋共に多収、外観極良、調理特性良好、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性	・疫病、青枯病、そうか病に弱い	・秋作高温時の植付では、種いもの腐敗に注意する
	アイマサリ	愛系158×アイユタカ平成29年度奨励品種採用	中の晩	緑	淡ベージュ	短卵	明黄	浅	やや弱	強(抵抗性)	やや弱	やや弱	69	97	4,060	3,540	11.3	9.4	中上	・春秋共に多収、早期肥大性 ・ジャガイモシストセンチュウ、Yウイルス抵抗性	・青枯病にやや多い ・休眠期間がデジマより短い	・成熟すると表皮がやや粗くなる
認定品種	メークイン	イギリスからの導入種昭和53年度認定品種採用	中	やや濃緑	淡ベージュ	長卵	淡黄	浅	弱	弱	-	中	97	-	3,160	-	12.1	-	上	・食味良、市場価値大	・休眠期間長く秋作不適、Yウイルスに弱く、二次生長しやすい	・ソラニン含量がやや高く、秋作ではえぐ味を生じやすい
	普賢丸	アトランチック×P-7平成8年度認定品種採用	中の早	淡緑	黄	短卵	明黄	浅	弱	やや強	弱	中	63	101	3,280	3,120	12.4	12.1	上	・ジャガイモシストセンチュウ抵抗性 ・早期肥大性	・青枯病に弱い ・強風により茎折れしやすい	・遅掘すると腐敗しやすい
	さんじゅう丸	長系107号×春あかり平成21年度認定品種採用	中の晩	やや淡緑	淡ベージュ	卵	淡黄	浅	弱	弱	中	やや強	97	97	4,250	2,530	9.4	9.6	中上	・ジャガイモシストセンチュウ抵抗性、そうか病に強い ・春作多収、外観良	・春作で収穫が遅れると腐敗がみられる。 ・でん粉価が低い ・秋作用種いもの貯蔵温度に注意する	・春作透明マルチでは適期収穫を徹底する。 ・秋作植付け時は、種いもの腐敗防止に努める。

(備考) デジマ、ニシユタカ、アイマサリは平成22～28年の平均値、さんじゅう丸は平成13～21年(休眠期間のみ平成14～18年)の平均値、アイユタカは平成14～18年の平均値、

メークイン、普賢丸は平成12～14年の平均値。

休眠期間は、収穫後温度制御しない暗黒下で貯蔵し芽が5mm以上に伸びた塊茎が50%に達するまでの期間の3～5ヵ年平均値。

茶									
奨励認定の別	品種名	来歴	早晩生	樹姿	樹勢	耐病性	その他の特性概要	耐寒性	適応地域
奨励品種	さえみどり	やぶきた × あさつゆ	早	中間	やや強	炭疽病中	幼木期の生育が良く、仕立ても容易である。早生種の中では、品質が極めて優れる。	やや強	平地 中間地
	あさつゆ	宇治種の実生から選抜	やや早生	中間	中	炭疽病 やや強	定植後の生育が劣り、収量も少ない。葉が軟らかく製茶で砕けやすい。品質主体の経営に適する。	弱	平地 中間地
	めいりよく	やぶきた × やまとみどり	中	やや直立	強	炭疽病中	出開きにくい特徴がある。生育良好で多収。品質は「やぶきた」と同等。清涼感がある。	強	平地 中間地
	やぶきた	静岡県在来種実生園から選抜	中	やや直立	やや強	炭疽病弱	収量も多く、栽培し易い。品質極めて優良。	強	全地域
	おくゆたか	ゆたかみどり × 茶本F1NN8	中晩生	中間	強	炭疽病中	成葉は楕円形で緑色。再生力大、分枝数多く株張りが優れる。多収、品質良好。	強	中間地 山間地
認定品種	さえあかり	Z1 × さえみどり	やや早生	やや開張	強	炭疽病 やや強	一番茶、夏茶とも品質が良好であり、樹勢が強く多収。明るい色沢と水色が特徴。	中	平地 中間地
	さきみどり	茶本F1NN27 × ME52	やや早生	中間	やや強	炭疽病中	初期成育は旺盛で株張りも良く仕立てが容易。緑色が濃く、色沢・水色に優れる。番茶の収量も多く原料茶に向く。	やや強	平地
	ふうしゅん	Z1 × かなやみどり	晩生	やや直立	強	炭疽病強	成育良好で多収。荒茶品質も大きな欠点がなく良好。番茶の収量も多く原料茶に向く。	強	中間地 山間地
	おくみどり	やぶきた × 静岡在来16号	晩生	やや直立	強	炭疽病弱	「おくゆたか」よりも遅く摘採期を拡大することに適している。新芽の硬化が遅く、伸びがよく、多収。品質も良好。	強	中間地 山間地

品 種 解 説

(稲、麦、かんしょ、大豆、ばれいしょ)

【稲】

◎ コシヒカリ（昭和36年度奨励品種・水稻粳）

福井県農試で「農林22号」×「農林1号」の組合せによって育成された極良食味の早期栽培用品種である。早生の早で成熟期は8月中旬である。高温登熟性は良く、穂発芽性は難である。食味評価は極めて高い。

収量性は早期栽培の中では高い。いもち病に弱く、白葉枯病には中位である。

倒伏しやすく、いもち病に弱いので、窒素過多は極力さける。また、収穫期における貯留・乾燥調製の不注意から品質低下をまねくおそれが強いので留意する。

普及地帯は県下の早期栽培地帯。

◎ つや姫（平成23年度奨励品種・水稻粳）

山形県農業総合研究センター水田農業試験場で「山形70号」×「東北164号」の組み合わせによって育成された早生の早に属する極良食味品種である。出穂・成熟期は「コシヒカリ」より1日程度遅い。

草型は偏穂数型である。稈長・穂長は「コシヒカリ」より短い。穂数は「コシヒカリ」より多い。粒着密度はやや密～中程度で、一穂粒数は「コシヒカリ」に比べ少ない。脱粒性は難、穂発芽性は中である。玄米収量は「コシヒカリ」に比べやや多収である。玄米の粒形・粒大は「コシヒカリ」並で、千粒重も同等である。玄米品質は、「コシヒカリ」に比べ優れる。心白粒の発生は「コシヒカリ」よりやや多いが乳白粒の発生はやや少ない。また、高温耐性は「コシヒカリ」より優れ、出穂後の高温による背白粒や基白粒の発生は少ない。食味は「コシヒカリ」より優れる。

稈の太さはやや細いが、短稈であり、耐倒伏性は「コシヒカリ」より強い“やや強”である。

いもち病真性抵抗性は *Pii, Pik* を持つと推定され、圃場抵抗性は「コシヒカリ」より強い“強”である。白葉枯病抵抗性は「コシヒカリ」より強い“やや強”である。縞葉枯病には罹病性である。

早期栽培では苗の生育が「コシヒカリ」に比べてやや遅く、苗も伸びにくいので、出芽から緑化の期間を十分にとり苗をある程度伸ばす。また、移植後低温に遭遇すると「コシヒカリ」に比べ生育が停滞するので深水管理を徹底する。

「コシヒカリ」より倒伏しにくく、多肥栽培では増収するが、食味が低下する恐れがあるので極端な多肥栽培はしない。
普及地帯は壱岐・県北を中心とした早期地帯と普通期早植の一部である。

◎ イクヒカリ（平成 17 年度認定品種・水稻粳）

福井県農試で「越南 148 号」×「北陸 148 号（どんとこい）」の組み合わせによって育成された早生の早に属する極良食味品種である。出穂期は 13 日、成熟期は 18 日程「ヒノヒカリ」より早い。

草型は中間型である。止葉は直立し草姿は良い。稈長は「ヒノヒカリ」より 6 cm 程度短く、稈の太さは中程度で耐倒伏性はやや強である。粒着密度はやや密で、一穂粒数は多い。脱粒性は難、穂発芽性は中である。収量は「ヒノヒカリ」より低収だが、対馬では「ヒノヒカリ」に比べて極めて多収である。

玄米の粒形・粒大は中で、「ヒノヒカリ」に比べ粒厚が厚く、千粒重は同等。

玄米品質は、乳白粒、背白粒の発生がやや少なくやや優れ、対馬では「ヒノヒカリ」に比べ粒の充実が良くかなり優れる。食味は極良食味で冷めても軟らかく粘りがある。

縞葉枯病には罹病性である。いもち病の抵抗性は中程度で、菌型によっては発生することがあるので、防除には留意する。

粒数が多くなると乳白粒が多くなり品質が低下するので、極端な多肥栽培は避ける。

普及地帯は対馬地区および野菜との二毛作地帯である。

◎ なつほのか（平成 28 年度奨励品種・水稻粳）

鹿児島県農業開発総合センターで「西南 115 号」×「西海 250 号（にこまる）」の組み合わせによって育成された早生の晩に属する極良食味で多収の高温耐性品種である。

「ヒノヒカリ」に比べて出穂期は 7 日程度、成熟期は 11 日程度早い。

草型は偏穂重型である。「ヒノヒカリ」と比べて稈長はやや短く、稈の太さは中程度で、耐倒伏性は中である。一穂粒数はやや少ない。脱粒性は難、穂発芽性はやや難である。

玄米の粒形・粒大は「ヒノヒカリ」よりやや大きく、千粒重もやや重い。高温耐性品種で玄米品質は心白粒、乳白粒、背白、

基白の発生が少なく、「ヒノヒカリ」より優れ、耐病性はいもち病、白葉枯病ともにやや弱である。

食味は「ヒノヒカリ」並に優れ、収量は「ヒノヒカリ」よりやや多収である。

苗の生育が「ヒノヒカリ」に比べてやや早く、苗も伸びやすいので、育苗管理に注意する。いもち病にはやや弱いので、防除等に留意する。また、多肥栽培ではいもち病の発生程度が高くなる傾向にあるので、窒素過多を避ける。

普及地帯は県下の中山間地域、麦・みかん・野菜などの複合経営地帯。

◎ 恋初めし（令和2年度認定品種・水稻粳）

西日本農業研究センターで「関東222号（あきだわら）」×「中国201号（恋の予感）」の組み合わせによって育成された中生の早に属する業務用向け多収良食味品種である。

「ヒノヒカリ」に比べて出穂期は2日程度早く、成熟期は4日程度早い。草型は偏穂重型である。「ヒノヒカリ」と比べて稈長、穂長は同等で、耐倒伏性も同等である。一穂粒数は多い。脱粒性は難、穂発芽性はやや難である。

玄米の粒形、粒大は「ヒノヒカリ」より大きく、千粒重も重い。玄米品質は「ヒノヒカリ」と同等で、「ヒノヒカリ」と比べて心白粒の発生は同等であるが、腹白粒の発生は多い。出穂後の高温による背白粒の発生は「ヒノヒカリ」よりも少ない。耐病性は葉いもちにはやや強、穂いもちには強であり、縞葉枯病には抵抗性を持つ。白葉枯病にはやや弱である。

食味は「ヒノヒカリ」並みに優れる。収量は「ヒノヒカリ」に比べ多収である。

「ヒノヒカリ」に比べてやや苗が伸びやすいので育苗管理に注意する。基肥を多肥にすると倒伏のおそれがあるので窒素過多を避け、穂肥が施用できるような肥培管理を行う。

普及地帯は県央・県北地区の大規模経営地域である県内普通期地帯。

◎ おてんとそだち（平成24年度奨励品種・水稻粳）

宮崎農試で「南海149号」×「北陸190号」の組み合わせによって育成された極良食味良質多収品種である。熟期は中生の中に属する。出穂期、成熟期は「ヒノヒカリ」並である。

草型は偏穂重型である。稈長は「ヒノヒカリ」より短く耐倒伏性は強い。一穂粒数は多い。脱粒性は難、穂発芽性は中である。

玄米の粒形・粒大は中で、粒揃いが良く、千粒重は「ヒノヒカリ」と同等からやや軽い。高温耐性品種で、玄米品質は心白粒、乳白粒、背白粒の発生が少なく、「ヒノヒカリ」より優れる。

いもち病は葉いもち“中”、穂いもち“やや弱”、白葉枯病は“弱”である。

食味は「ヒノヒカリ」並で、収量は「ヒノヒカリ」よりやや多収である。

短稈で倒伏しにくい、多肥栽培では食味や品質が低下する恐れがあるので極端な多肥栽培は避ける。

千粒重がやや軽いため、穂肥が遅くなると籾数が少なく減収する恐れがあるので適期に施肥する。

普及地帯は県南平坦部を中心とした県下普通期地帯である。

◎ ヒノヒカリ（平成元年度奨励品種・水稻粳）

宮崎県農試で「黄金晴」×「コシヒカリ」の組み合わせによって育成された極良食味品種である。熟期は中生の中に属する。

草型は偏穂重型である。稈長は長く、耐倒伏性はあまり強くない。二次枝稈粒が着きやすく、一穂籾数はやや多い。

脱粒性は難、穂発芽性は難である。収量性は同熟期の中では高い。

玄米は濃飴色で、薄茶米、ねじれ粒がでやすく、品質は中程度である。食味は極めて良く、「コシヒカリ」並である。

いもち病、白葉枯病にはやや弱である。

耐倒伏性はあまり強くない、いもち病にも弱いことから食味を活かすためにも多肥栽培は避ける。また、防除にも留意する。

刈取適期が短く、刈遅れると薄茶米～茶米が発生しやすく品質低下の原因となるので、適期刈取に特に注意する。

普及地帯は、平坦肥沃地並びに高標高地を除いた県下全域の普通期栽培地帯である。

◎ にこまる（平成16年度奨励品種・水稻粳）

九州農試で「は系626」×「北陸174号」の組み合わせによって育成された極良食味多収品種である。熟期は中生の晩に属する。「ヒノヒカリ」に比べて、出穂期で3日、成熟期で5日遅い。

草型は偏穂重型である。生育初期には葉が長く垂れる。稈長は「ヒノヒカリ」と同程度で耐倒伏性はあまり強くないが、「ヒノヒカリ」よりやや強い。稈質はやわらかく、一穂籾数は少ない。脱粒性は難、穂発芽性は中である。

登熟歩合が高く、玄米の粒形・粒大は中で、粒揃いが良く、千粒重は重い。高温耐性品種で、玄米品質は心白粒、乳白粒、背白粒の発生が少なく、「ヒノヒカリ」より優れる。

いもち病はやや弱く、白葉枯病は中である。

食味は「ヒノヒカリ」並。収量は「ヒノヒカリ」より多収。

いもち病にやや弱いので防除等に留意する。倒伏にはあまり強くないので、極端な多肥栽培は避ける。

普及地帯は対馬地区を除く県下全域の平坦地。

◎ レイホウ（平成4年度認定品種・水稻粳）

九州農試で「西海 62 号（ホクヨウ）」×「綾錦」の組合せによって育成された晩生の早に属する穂数型の多収品種である。玄米は腹白がやや多い。

酒造用の掛け米としての評価は高い。耐倒伏性は強に属するが、極端な多肥条件では不十分である。脱粒性はやや易である。いもち病の 003、033 には強いが、102S には弱い。白葉枯病には中位であるので常発地帯では注意を要する。

平坦地及び山麓の肥沃地に好適であり、秋冷の早い標高の高い地域や山間地はさける。肥沃地向きの品種で、やせ地や少肥条件では十分な生産力を発揮できない。

普及地帯は県央、県南の平坦部である。

◎ 山田錦（平成元年度認定品種・水稻粳）

兵庫県農試で、「山田穂」×「短稈渡船」の組合せによって育成された酒造好適米の中生種である。

出穂期はヒノヒカリと同程度である。稈長は 100cm 以上の長稈、穂重型で倒伏に非常に弱い。穂数はヒノヒカリと同程度である。収量性は低い。玄米に特徴があり、大粒で千粒重は重く、心白が多い、いわゆる酒造好適米である。

いもち病には弱い。

栽培上の留意点として、倒伏に弱いので施肥・水管理に注意する。いもち病に弱いので防除に努める。

胴割れがでないよう収穫時期・乾燥には十分注意する。昼夜の気温較差が大きい中山間～山麓地帯で栽培する。

普及地帯は中山間～山麓で団地化をはかる。

◎ 峰の雪もち（平成7年度認定品種・水稻糯）

東北農試で「奥羽 302 号」×「ヒメノモチ」の組合せによる交配、鹿児島県農試で世代促進、北陸農試で個体選抜が行われた早期栽培用の糯種である。

出穂・成熟期は、「コシヒカリ」より3日程度早い極早生種である。極短稈で、稈はやや太く耐倒伏性は強い。

籾は無芒でふ先色は黄白である。脱粒性は難、穂発芽性はやや難である。

玄米は粒厚が厚く、千粒重が重く、品質は良い。餅質は外観、粘り共に良く、食味は非常に良い。

いもち病抵抗性は葉いもちに中、穂いもちにやや弱である。

極短稈種なので栄養生長を十分にさせて、ある程度の草丈を確保しないと収量が安定しない。施肥量をやや多くするとともに、土づくりが大切である。

ふ先色が黄白なので、粳品種との種子の混入に注意する。

普及地帯は県下の早期栽培地帯。

◎ モチミノリ（平成6年度認定品種・水稻糯）

農研センターで「喜寿糯」×「関東 125 号」の組み合わせによって育成された糯種である。

熟期は、日本晴並の早生の晩である。偏穂重型で、穂長は「サイワイモチ」より長く、穂数は少ない。稈長は「サイワイモチ」と同等で、耐倒伏性はやや強である。ふ先色並びにふ色は赤褐色で、粳種との識別は容易である。玄米千粒重は「サイワイモチ」と同等で、粒揃いが良い。収量は「サイワイモチ」よりやや低い程度である。品質は良い。搗精時の胚芽残存粒割合が高いため、白米白度が低く餅の外観がやや劣る傾向があるが、食味は良い。縞葉枯病抵抗性で、いもち病、白葉枯病には中程度である。

栽培上の留意点として、いもち病には中程度であるが、「サイワイモチ」よりやや弱いので、常発地では発生に注意して適期防除に努める。

普及地帯は県下の早生地帯である。

◎ サイワイモチ（平成5年度認定品種・水稻糯）

九州農試で「レイホウ」×「西海糯 129号（クレナイモチ）」の組み合わせによって育成された糯種である。

熟期は「モチミノリ」と「ヒヨクモチ」のほぼ中間で、「にこまる」並の中生の晩である。やや密粒の穂数型で、穂長は「ヒヨクモチ」より短く、穂数は多い。稈長は「モチミノリ」と同等で、耐倒伏性は強に属するが、稈はやや細く稈質もあまり強くない。ふ先色並びにふ色は紫褐色で、粳種との識別は容易である。玄米千粒重は「モチミノリ」と同等で、粒厚が薄いので歩留まりが低い。いもち病には概して強いが、白葉枯病にはやや弱い。

栽培上の留意点として、稈質はあまり強くないので、肥沃地では適正な肥培管理に努める。白葉枯病にはやや弱いので、常発地では注意を要する。

普及地帯は、県央・県南の平坦及び山麓地帯である。

◎ ヒヨクモチ（平成16年度認定品種・水稻糯）

九州農試で「ホクヨウ」×「祝糯」の組み合わせによって育成された糯種である。

熟期は晩生の晩に属する。「サイワイモチ」に比べ出穂期で4日、成熟期で6日程度遅い。

草型は穂数型で稈長は「サイワイモチ」より短く、耐倒伏性は極強である。サイワイモチより穂数はやや少なく、穂長はやや長く、一穂粒数は同等。脱粒性は易である。穂発芽性はやや易である。

ふ先色は褐色で粳種との識別は容易である。

玄米千粒重は「サイワイモチ」と同等で、粒厚はかなり厚いので歩留まりがよい。収量は「サイワイモチ」よりやや低収。品質はやや劣る。食味は「サイワイモチ」並。

いもち病にやや弱いので、防除等に留意する。極端な多肥栽培は、いもち病の発生と品質低下の要因となるので避ける。また、成熟期が遅いので極端な遅植は避ける。

普及地帯は県央の平坦肥沃地である。

【麦】

◎ シロガネコムギ（昭和61年度奨励品種・小麦）

九州農試で「シラサギコムギ」×「西海104号」の組合せにより育成された早生品種である。

稈は短くて強く、穂長はやや短く、穂数が多い短稈穂数型である。倒伏には強い。穂は白ふで、粒は黄色をおびた黄褐色である。

耐病性は、小麦縞萎縮病に強、うどんこ病にやや弱、さび病にやや弱、赤かび病には中だが、1穂全部罹病して被害が大きくなる場合があるので、防除の徹底を図る。穂発芽し易いという欠点があるので、刈取り前後の管理等には十分注意する必要がある。

収量性は、少肥条件下では劣るが、多肥条件下では優るので多肥栽培する必要がある。品質は、特に加工適性に優れている。普及地帯は県下全域であるが、特に平坦肥沃地に向く。

◎ チクゴイズミ（平成5年度奨励品種・小麦）

九州農試で「関東107号」×「アサカゼコムギ」の組合せにより育成された。

出穂・成熟期はシロガネコムギ並の早生種である。稈長は「シロガネコムギ」よりやや長く、耐倒伏性は「シロガネコムギ」よりやや劣る。穂は白ふで穂発芽性は難である。

耐病性は、ムギ類萎縮病、小麦縞萎縮病に強、赤かび病には中、うどんこ病にはやや弱である。

収量性は「シロガネコムギ」よりやや優れ、粒が大きく見かけの品質も優れる。製めん特性は優れており、特に粘弾性が良い。

栽培上の留意点としては茎立ちが早いため極端な早播は春先に凍霜害の恐れがあるので避ける。また耐倒伏性は「シロガネコムギ」ほど強くないので極端な多肥栽培は避ける。やや脱粒しやすいので適期刈取りに努める。

◎ ミナミノカオリ（平成18年度奨励品種・小麦）

九州沖縄農研で「Pampa INTA」×「西海167号」の組合せにより育成された。

出穂・成熟期は「シロガネコムギ」並の早生種である。稈長は「チクゴイズミ」よりやや短く、耐倒伏性は強い。ふ色は「褐」で穂発芽性は「シロガネコムギ」並の「やや易」である。

耐病性は小麦萎縮病にやや弱、うどんこ病と赤さび病にはやや強であるが、赤かび病にはやや弱である。

収量性は「シロガネコムギ」より劣り、原麦粒の見かけの品質もやや劣る。

粒質は硝子質で、原粒の粗タンパク質含有率は「シロガネコムギ」より高く、手延べ素麺用をはじめとしてパン用、醤油醸造用に適する。

栽培上の留意点として、茎立ちが早いため極端な早播を避ける。また赤かび病にやや弱いので適期防除に努め、さらに穂発芽性がやや易であるため適期収穫に努める。

◎ 長崎W2号（平成25年度奨励品種・小麦）

長崎県と九州沖縄農研の共同研究により、「西海 185 号」×「北見春 61 号」／「西海 186 号」（のちの「ミナミノカオリ」）の組合せにより育成された。

出穂期は「ミナミノカオリ」より 2 日程度遅く、成熟期は同程度の早生種である。稈長は短く、耐倒伏性はかなり強い。穂は白ふで穂発芽性は「やや難」である。

耐病性は小麦萎縮病、うどんこ病、赤かび病のいずれにも「やや弱」である。

収量性は「やや多」、原麦粒の見かけの品質は「中の中」でいずれも「ミナミノカオリ」より優れる。

粒質は硝子質で、製粉性、粉色に優れ、やや低アミロースタイプであることから麺の食感が優れる。

秋播性がⅣで茎立ちが遅いため早播きも可能である。

栽培上の留意点として、コムギ縞萎縮病に抵抗性ではないので、汚染圃場での作付けは避けるとともに、うどんこ病、赤かび病についても、適期防除を行う。また、パン・中華麺用小麦のランク区分タンパク基準値子実タンパク質含有率 11.5%以上を確保するため、穂揃期追肥を実施する必要がある。

◎ はるか二条（平成25年奨励品種・二条大麦）

九沖農研で「羽系 B0080」×「西海皮 59 号」の組合せにより育成された早生種である。出穂、成熟期は「ニシノホシ」に比べ2日程度早く、稈は細いが短稈で耐倒伏性は強い。穂数は多く穂は淡黄色で芒は長い。

大麦縞萎縮病、うどんこ病抵抗性はともに極強で赤かび病には中で、穂発芽性は「ニシノホシ」と同程度である。粒はやや小粒で千粒重はやや小さいが収量性は安定して多収で、外観品質は良い。

軟質で搗精時間が短く搗精時の欠損粒の発生は少ない。また精麦白度が高く精麦品質、加工特性に優れる。

栽培上の留意点としては秋播性程度が I で茎立ち性が早いため極端な早播きは早霜による霜害を受け易いので注意する。

◎ 御島稈（昭和12年度奨励品種・はだか麦）

長崎県農試で「御厨」×「島原稈」の組合せにより育成された晩生種である。

やや長稈で倒伏しやすいので土入れ等により倒伏防止に努める。成熟期が近づくと稈が折れやすくなり、特に熟期が過ぎると急激に折損して収量が低下するので適期刈取りに努める。秋播性をもつので少し早めの播種がよい。

主要病害に対しての抵抗性は強いほうである。

収量性はあまり多くないが豊凶の差が少なく、少肥でもあまり減収しない。玄麦はやや小粒であるが良質である。

普及地帯は、県下全般の畑および水田裏作地帯。

◎ 長崎御島（平成29年度奨励品種・はだか麦）

長崎県農林技術開発センターと農研機構近畿中国四国農業研究センター（現・西日本農業研究センター）で「御島稈」×「イチバンボシ」の組み合わせによって共同育成された早生種である。

「御島稈」より出穂期、成熟期は早く、穂数が多く多収であり、耐倒伏性も強い。容積重、千粒重は重く、検査等級が優れている。精麦特性は「御島稈」に近いが精麦白度は高く、味噌加工適性は「御島稈」並に優れる。

なお、うどんこ病抵抗性は‘中’、赤かび病抵抗性は‘やや強’と不十分であるため、適期防除を行う必要がある。また、多肥栽培条件下では倒伏する場合もあるため、窒素過多を避ける。

秋播性程度 (花芽分化に必要な低温要求程度)							
I	II	III	IV	V	VI	VII	
低い (春、暖かくなってから 播種しても花芽を分化する)							高い (花芽分化に冬期の 低温が必要)
(秋播性が低い) (春播性が高い)							(秋播性が高い) (春播性が低い)

【かんしょ】

◎ 農林1号（昭和24年度奨励品種・かんしょ）

「元気」×「七福」の組合せで育成された食用および工業原料用の品種である。苗床におけるほう芽、伸長とも極く良好で採苗が容易である。定植後の生育、つる伸びも良好で、多肥、肥沃地ではつるぼけする傾向が強い。砂地、乾燥地には不適當で又晩植には不向きである。

いもは短紡錘で大きく赤褐色を呈するが、ときには色がぼけ縦溝ができて食用向けとしては嫌われることがある。

多収で黒斑病に強く貯蔵が容易である。

肉色は淡黄で粉質、食味は良好で、やきいも、蒸しいも等に適する。

普及地帯は県下全般。

◎ 農林2号（昭和18年奨励品種・かんしょ）

「吉田」×「沖縄100号」の組合せで育成された工業原料用の品種である。

苗床における、ほう芽、伸長は「農林1号」に比べると悪い。定植後の初期には生育、伸長がやや悪いが、その後の生育、つる伸びは良好で、少肥、晩植適応性がやや高い。

いもは下膨短紡錘で大きく黄白色でごくまれに着色したものを見かけることもある。多収でネコブセンチュウに強い。黒斑病に弱く防除が必要である。

貯蔵には難点があるので注意する。

肉色は淡黄で肉質は粉～中で食味はあまり良くない。

普及地帯は県下全般。

◎ 高系14号（昭和45年度奨励品種・かんしょ）

「ナンシーホール」×「シャム」の組合せで育成された食用の品種で本県では青果用として採用された。「コトブキ」や「ニシ

キ」と呼ばれているが同種異名である。苗床における、ほう芽、ほう芽数および伸長が悪いので種いも数を増し育苗中の保温、保水に留意すること。

いもは長紡錘で中程度の太さで紅色で外観がよいが、多肥やいもが大きくなりすぎると皮色が薄くなり外観が悪くなる。

ネグサレセンチュウには強いが黒斑病に弱く防除が必要である。

貯蔵性が弱いので貯蔵中の管理に留意する。

肉色は黄色で早い時期から繊維が少なく粉質をあらわす。食味良好で市場性が高い。

普及地帯は県下全般に栽培できるが特に早掘栽培の場合は春季昇温が早い砂壤土、壤土に好適である。

◎ ベニオトメ（平成元年度奨励品種・かんしょ）

「九州 88 号」×「九系 7674-2」の組合せで育成された食用の品種である。

苗床におけるほう芽、伸長は「高系 14 号」よりも良い。定植後の初期生育はやや緩慢であるが、中～後期の生育は極めて良い。いもは紡錘形で中程度の太さで皮色は赤紅色、生いもの肉色は淡黄である。

いもの形や大きさが揃い、条溝、裂開はなく外観が良い。早掘適性があり、普通掘栽培では「高系 14 号」よりも多収である。貯蔵性は易である。黒斑病にはやや強、サツマイモネコブセンチュウに強、ミナミネグサレセンチュウに中の抵抗性を持っている。栽培条件により、諸梗がやや長くなり、蒸しいもの黒変を生ずることがある。

蒸しいもの肉色は黄、肉質は中で食味は良い。

普及地帯は県下全般であるが、特に赤黄色土に適する。

【大豆】

◎ フクユタカ（昭和56年度奨励品種・秋大豆）

「岡大豆」×「白大豆3」の組合せで、九州農試で育成された秋大豆である。花色は紫。莖長と分枝数は中位で莖はやや太く、倒伏にも強い。

粒は黄白色で光沢をもつ。また、粒はやや大粒で球に近く、粒張り粒揃もよく品質は極めてよい。

熟期は晩の早生で、良質多収品種である。

褐斑粒の発生は極めて少ないが、ネコブセンチュウ、葉焼け病、さび病には強くない。

栽培適地は県内全地域。干害にはやや弱い傾向があるが、水分条件のよい水田転換畑ではよく多収の能力を発揮する。

高タンパクで豆腐にした時、固まりやすく硬い豆腐ができる。へその色が淡褐色であることと、蒸煮した時ややかたく出来上がるため、煮豆にはあまり向いていない。

【ばれいしょ】

◎ デジマ（昭和45年度奨励品種・ばれいしょ）

昭和37年北海道農試で交配された「北海31号」×「ウンゼン」の組合せから、長崎県（指定試験地）で選抜・育成された。茎長は長い方で、生育は旺盛である。茎葉の熟性は晩生である。

ふく枝は長く、特に春作では掘取りに注意が必要である。いもつきの早さは中程度であるが中期以降の肥大がよい。いもの形は短卵で、目は浅く、皮色は淡ベージュで外観は優れている。肉色は淡黄で、食味も優れている。

休眠期間は短く、出芽は春作・秋作ともに良好である。収量は春作・秋作ともに多収であり、品質も優れること等により、奨励品種に採用された。短所として、特に青枯病、乾腐病に弱く、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性はなく、二次生長の発生が見られる。また、高温時は種いもが腐敗しやすいので、秋作の植付け時期が早すぎると欠株や減収を招く。また、そうか病や疫病の被害も年次によってかなり発生することがあるので注意が必要である。

◎ ニシュタカ（昭和53年度奨励品種・ばれいしょ）

昭和45年に交配した「デジマ」×「長系65号」の組合せから、長崎県（指定試験地）で選抜・育成された。

茎長は短く、茎は直立し倒伏に強い。また、葉色は濃緑で、開花はごく少ない。茎葉の熟性は「デジマ」よりやや早い中晩生である。

ふく枝は短く、いもは株元にまとまって着き、玉揃いが良い。いもの肥大速度は速い方である。

いもの形はやや扁平な短卵で目が浅く、皮色は淡ベージュ、肉色は淡黄で外観は良い。食味は「デジマ」よりやや劣る。

春作産の休眠期間は「デジマ」に比べてやや長く、秋作では出芽が遅れやすい。収量は春作・秋作ともに多収であり、特に春作では優れる。県内のばれいしょ栽培面積に占める品種割合が最も高い。

粉状そうか病、軟腐病、塊茎腐敗病などには中以上の抵抗性を示す。葉巻病、そうか病に弱く、Yモザイク病による塊茎えそを発症しやすい。ジャガイモシストセンチュウ抵抗性はない。また、春作で遅掘りすると肌あれを生じ外観が悪くなるだけでなく、秋作の萌芽が遅くなるので早掘りする必要がある。

◎ アイユタカ（平成14年度奨励品種・ばれいしょ）

平成8年に交配した「デジマ」×「長系108号」の組合せから、長崎県（指定試験地）で選抜・育成された。

茎長は短く、やや直立性で、葉色は緑色。開花は稀で、花色は赤紫系に白色が混じる。茎葉の熟性は「デジマ」、「ニシユタカ」よりやや早い中生である。茎葉が黄化する前から小葉上に黒色の小斑点を生じやすい。

ふく枝の長さは中。早期肥大性があり、いもの皮色は淡ベージュ、短卵形で、目が浅く、滑皮で、形くずれが少なく、外観に優れる。いもの肉色は淡黄色で、でん粉価は「デジマ」よりやや低く、蒸しいもによる食味は「デジマ」と「ニシユタカ」の間である。肉質は、春作産は中～やや粘質、秋作産は中で火の通りが早い。水煮による煮崩れの程度は「デジマ」よりやや多い。

休眠期間はやや短で、出芽期は、秋作では「デジマ」より遅く「ニシユタカ」より早い。春作では、秋作産種いも利用の場合両品種より遅いが、一期作産種いも利用の場合は両品種より早い。収量は春作、秋作とも「デジマ」より多く、「ニシユタカ」と比較して春作ではやや少ないが、秋作では多い。二次生長および裂開は無である。

病害虫抵抗性では、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有する。ウイルス感染時の主な病徴は漣（れん）葉モザイク症状で、Yモザイク病抵抗性は「デジマ」並の中である。粉状そうか病抵抗性は中である。疫病、そうか病、および青枯病には弱い。

◎ アイマサリ（平成29年度奨励品種・ばれいしょ）

平成19年に交配した「愛系158号」×「アイユタカ」の組合せから、長崎県で選抜・育成された。

茎長は「ニシユタカ」と同等かやや長く、草姿はやや直立である。葉色は「ニシユタカ」より淡い緑色で、「デジマ」と同程度である。花は淡赤紫で花数は少ない。茎葉の熟性は「デジマ」よりやや早い中晩生で、黄化の進展に伴い茎が倒伏する傾向にある。ふく枝の長さはやや短～中で、いもの形は厚みのある短卵、皮色が淡ベージュの滑皮で目が浅い。肉色は明黄で、でん粉価は高くないが、蒸しいもの食味は「ニシユタカ」より優れ、舌ざわりが滑らかである。水煮による煮崩れはほとんどない。

休眠期間は短で、「デジマ」よりもやや短い。出芽期は、春作では「デジマ」「ニシユタカ」よりやや早く、秋作では「デジマ」並みに早い。春作では「ニシユタカ」並み、秋作では「ニシユタカ」より多収で、早期肥大性がある。「ニシユタカ」に比べて裂開が発生しやすく、秋作でやや発生が多い。

ジャガイモシストセンチュウおよびジャガイモYウイルスに抵抗性を示す。疫病、そうか病にやや弱く、青枯病には弱い。

◎ **メークイン**（昭和53年度認定品種・ばれいしょ）

イギリスからの導入品種。

茎は太めで、草姿はやや開張性、花色は紫である。茎葉の熟性は中生である。

いもの形は長楕円で、目が浅く、皮色は淡ベージュである。肉色は淡黄で、食味も優れており、底堅い需要がある。ただし、ソラニンやチャコニンの含量がやや高く、秋作産や未熟な塊茎ではえぐ味を生じやすい。

収量は、春作では「デジマ」よりやや少ない。いもの着き方はやや密であるが、いもの形が長楕円で畦外に露出して緑化し易いので、培土は多めに、かつ時期が遅れないように行う。収穫時期が遅れると二次生長しやすいので、適期収穫を行う。

ウイルス病抵抗性は弱である。ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有しない。

◎ **普賢丸**（平成8年度認定品種・ばれいしょ）

平成元年に交配した「アトランチック」×「P - 7」の組合せから、長崎県（指定試験地）で選抜・育成された。

茎長は短い、風による損傷を受けやすい。葉色は淡緑～緑で、開花は極めて少ない。茎葉の熟性は中早生である。

ふく枝はやや短く、玉揃いは良い。いもの形は、球形に近い短卵で目が浅く、皮色は黄であるが、表皮はやや粗い。肉色は淡黄で、でんぷん価は高く、食味は優れている。いもの肥大始期は「デジマ」より早く、特に春作での早期肥大性に優れる。

収量は、春作は「デジマ」並であるが、秋作では「デジマ」より劣る。春作では茎葉の黄変時期が早く、収穫時期が遅れると粗皮になりやすく、腐敗いもが増加するので適期収穫を行う。

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、葉巻病、Yモザイク病にはやや強以上、そうか病には中程度の抵抗性を示すが、粉状そうか病、青枯病の抵抗性は弱である。

◎ **さんじゅう丸**（平成21年度認定品種・ばれいしょ）

平成10年に交配した「長系107号」×「春あかり」の組合せから、長崎県（指定試験地）で選抜・育成された。

茎長は「デジマ」より短く、「ニシユタカ」並である。葉色はやや淡緑色で、花は白色であるが開花は極めて少ない。茎葉の熟性は「デジマ」よりやや早い中晩生である。

いもの形は、卵形で目が浅く、表皮は滑らかで、皮色は淡ベージュで外観が良い。肉色は淡黄で、でん粉価は「デジマ」「ニシユタカ」より低く、煮くずれの程度は「デジマ」より少ない。いもの肥大始期は「デジマ」並で、収量は、春作では「デジマ」より多いが、秋作では「デジマ」よりやや少ない。

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、「デジマ」、「ニシユタカ」よりそうか病に強く、青枯病に中程度の抵抗性を有するが、疫病とYモザイク病には弱い。

春作、特に透明マルチ栽培での収穫時期の遅れは、いもの腐敗を招きやすい。秋作高温時の植付けでは、種いもの早期腐敗により欠株が多くなることもある。また、春作産種いもの貯蔵中に高温が続くと、秋作での出芽不良が起こることがあるので、注意する。